

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770300329		
法人名	医療法人社団 五色会		
事業所名	グループホーム たまよし		
所在地	香川県坂出市加茂町194番地1		
自己評価作成日	令和6年11月11日	評価結果市町受理日	令和7年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の生活リズムを大切にしながら本人のペースで対応して不安にならないように配慮しています。入居者の得意な事、好きなことを引き出して継続できるように支援しています。老人保健施設と併設しており、医師、看護師、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士等の交流も簡単にできるので、入居者のちょっとした変化等の相談もでき、入居者の方も安心した生活ができるように努めています。季節の行事などに積極的に取り組み、地域との交流も深めれるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

山麓の丘陵地の一画に建つ介護老人保健施設に併設された事業所である。ユニットにはベテランの職員が在籍しており、入居者一人ひとりの個性を熟知してお世話に当たられている。事業所は、病院や介護老人保健施設の医療や介護関係者との連携により、職員の研修や資格の取得も積極的に進められている。理念の「いつも笑顔で感謝の気持ちをもって」をもとに、入居者には敬意をもって接せられており、入居者や家族等の気持ちに寄添う支援で、事業所の信頼を高めている。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	令和7年1月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも笑顔で感謝の気持ちをもって」をたまよしの理念とし、毎日笑顔になるような声かけ、日々の生活リズムを大切にしながらも焦らずゆとりを持ちながら対応できるよう努めている。また、スタッフや地域の中での役割を認識して具体的なケアについて考えている	理念は創設以来一貫している。ベテランの職員は実践を通して、笑顔で利用者に接しており、顔を合わせて話をする中で、利用者の心身の状態が分かるようになっている。管理者を中心にチームに纏まりがある	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会には加茂こども園の園児さんが訪問に来たり、秋祭りの時は獅子舞が来てくれます。クリスマス会には地域の方にも来ていただきつながりを深めるようにしていきたいと考えている	コロナ禍以降、地域の交流は少なくなったが、徐々に再開されている。獅子舞やボランティアの慰問や地域からのイベントの招待も受けられている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症の方の対応について相談を受けたり、市役所と連携して認知症相談窓口として活動している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の奇数月で運営推進会議を開催しています。市の職員(かいご課・地域包括支援センター)や地域の民生委員の方と話し合っている。内容については、サービスの報告、評価などを話し合い、今後のサービスの向上に向けて取り組んでいる	運営推進会議は定期的に開催され、市職員、介護相談員、民生委員、家族が参加している。事業所のサービスの実情を報告し、理解を得た上で、新たな取組みについての話し合いなどが行われている	運営推進会議は参加者が固定されてきており、利用者や家族等の参加が少なくなっています。会議での報告を家族や関係者等により積極的にお知らせすることなどの工夫を通じて、更に多くの意見や関心に発展することに期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで、坂出市のかいご課や地域包括支援センターの職員の方と話し合い協力関係が築けるように取り組んでいる。また、今後は地域ケア会議にも参加して協力関係を築けるようにしていきたいと考えている	運営推進会議の参加から介護についての情報を得たり、困難事例を相談したりして、介護相談員や包括支援センターの職員と協力関係を築くよう取組まれている。その他市主催の地域ケア会議に参加して、連携を築いていきたい意向である	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を1か月に1回実施している。また身体拘束の勉強会を事業所内で実施し身体拘束の対象となる行為を入居者様の目線で話し合い、職員の理解を深めている	身体拘束適正委員会は月1回開催されており、身体拘束の研修も勉強会の中に取り入れ、事業所内で理解を深めるよう実施がなされている。安全確保のため施錠はあるが、日中玄関や入り口は開かれている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を1か月に1回実施している。また、虐待防止に関する勉強会などで理解を深め、尊守に向けた取り組みが出来るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の必要なケースはなく、必要があれば職員間で話す機会をもち支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに関する考え方や対応可能な範囲について説明を行っている。また、介護報酬の改定や制度改正等のほかに利用料が増加する場合はご家族と相談し理解を得られるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは日々の支援の中で意見を聴けるようにかかわっている。ご家族の方には訪問時や電話で問いかけ、なんでも話してもらえるような雰囲気づくりに配慮している	入居者には普段から声をかけ、意見や要望が汲取られている。家族等にも、面会時や電話時に何でも話せるよう関係づくりに努められており、意見や要望などが反映できる環境づくりに配慮がなされている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は共に職員の要望や意見を聞くように心がけている。個別面談等で意見を聞くようにしている。また勉強会やミーティングで出た意見やアイデア話し合い改善ができるように機会を設けている	朝夕のミーティングや連絡帳の回覧、勉強会などを通じて、常に職員の意見や提案が反映できる環境づくりに努められている。個人面談等でも意見を求めて、出た意見や提案は、職員等との話し合いや代表者と話し合いをして改善策が講じられている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は職員の意向を重視しながら、職場で活かせる労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会をなるべく多くの職員に受講できるようにしている。また勉強会で発表し研修資料を閲覧できるようにしている。全国の老健大会にも参加したりしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度はグループホーム同士の連絡会を9月に開催しました。サービスの向上に向けて取り組み相互訪問についても話し合いました		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の置かれている状況を把握し、求めていることや不安な事を理解し、ニーズの対応ができるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解して要望に対してどのように対応ができるか事前に話し合いをしている。また、ゆっくりとした状況で話を聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思いを大切にし可能な限り対応している。場合によっては他の事業所のサービスにつなげるなどの可能な限り柔軟な対応もしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら、ともに過ごして支えあう関係を築いていけるように配慮している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いに寄り添いながら日々の様子や気づきの情報の共有に努め、相談しながら良い関係を築いていけるよう心掛けています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者本人がその人らしく生活するためになじみの場所の話をしたり、知人や友人の話などをして、継続的な関係が保てるように働きかけている	会いたい人や行きたい場所、様々な経験などを聞き取りながら、機会があれば出掛けたり、会えるよう支援がなされている。家族等とも連携して協力体制が築かれている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性がうまくいくように配慮し、孤立してしまわないように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も経過を見守ったり、必要に応じて相談や支援に努めている。ご家族から写真等で状況の報告があり必要に応じて相談にのっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情から本人の希望や意向を把握に努めている。ご家族や関係からも情報を得て相談しながら検討している。本人にとって最良な生活を検討し把握できるように努めている	利用者一人ひとりに寄り添い、会話や表情から本人の思いを汲み取り、職員と話し合い情報の共有がなされている。わかりにくいことは、家族等にも相談して本人にとってよりよい生活に繋がるよう検討、実施がなされている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で本人の個性や価値観の把握を努めている。またご家族や地域の力を借りながら継続的に把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムを把握して、家族様や職員などによる情報を交換して、できる力を発見できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から日頃の関わりについて思いや意見を反映できるように努めている。職員で話し合ったアイデア、意見も取り入れ利用者主体の介護計画を作成している	本人や家族等の思いや希望を聞き取り、介護計画に反映されるよう心掛けられている。モニタリングは担当の職員が行い、カンファレンスでは関係者の意見やアイデアを取り入れ計画作成に活かされている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに記入し、職員間で情報の共有に努めている。また記録をもとに介護計画の見直しや実践に活かしている。出勤時に記録等の確認をしてもらい評価を実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望に応じて病院の受診やお孫様の結婚式の付き添いの委託や送迎など他の事業所のサービスを利用しながら臨機応変に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に坂出市のかいご課・地域包括支援センターの職員や民生委員・介護相談員などに来ていただき地域の人の力を借りて意見交換ができる機会を設けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望する病院に受診できるように送迎などの支援している。医療機関との情報交換など関係を密にし、十分な対応が行えるように支援している	受診先は本人や家族の希望で決められている。受診時には送迎などの支援がなされている。看護職員が医療情報を把握しており、利用者の心身の健康を維持している。必要に応じて医師の往診や医療関係者のリハビリ指導なども可能な環境が整えられている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置して日頃の健康管理や状態変化の対などの支援を行えるようにしている。また、些細な表情の変化を共有しながら、早期に対応できるように取り組んでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院する時に支援方法などの情報を医療機関に提供し関係職員と情報交換ができるように強めている。また、退院した後も積極的な支援を心掛けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けたマニュアルを作成している。本人や家族の意見を確認しながら医療機関との連携しながら対応している。終末期でも本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取りながら納得してもらえるように話し合い取り組んでいる	入居時に本人や家族の意向や希望を確認しながら、重度化や終末期の方針の説明がなされている。医療機関との連携により、その都度状態や意向を確認しながら、事業所での対応が可能な範囲での支援が実施されている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを確認や見直しをしながら、夜勤帯の対応、その後の連絡方法などの緊急時について定期的に話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の老人保健施設と合同で定期的に防災訓練や土砂災害避難訓練を行っている。地域の方と意見交換をして、避難経路の確認や非常用備品の確認も行い災害時の訓練に取り組んでいる	併設の介護老人保健施設と合同で、火災や災害に備えて、定期的な避難訓練など行われている。水の確保に井戸を掘り、蓄電池も備えられている。地域住民と意見交換をして、避難経路や非常用備品を確認し、協力関係の構築に取組まれている	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助時には本人の気持ちに寄り添って、さりげないケアを心がけている。個人の尊厳を尊重し、自己決定しやすいような働きかけをするように努めている	一人ひとりの個性や経験を理解して、本人の気持ちに寄り添うさり気ないケアが心掛けられている。利用者には敬意をもって接しており、穏やかな会話が出来ている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ本人が答えやすく、選びやすいような環境を作りながら支援できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわっているスタイルを把握し、その人らしさを保てるよう支援している。衣類の汚れ等はブライドを守りながらさりげなく支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになれるよう利用者様の食べたいもの等を管理栄養士に相談し食事への関心を引き出すようにしている。おかずは厨房で作ってもらっているがご飯(おかゆ)はホームで作っている	主食は事業所で作り、副菜は栄養士が作る献立により、調理場で給食として作られおり、栄養管理も出来ている。利用者はキッチン近くにて、生活リハビリの一環として、職員と一緒に食事の準備や片づけを手伝っている。献立は利用者の希望を聞き、好みも反映されており残菜も少ない	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をチェックし職員全員が常に意識しながら気をつけている。また、嗜好品や食べやすいものを出すように工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きができる方は声かけや見守りで対応し、出来ない方は職員が介助している。毎週、歯科衛生士より口腔機能についての指導や助言もあり嚥下障害機能の予防に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、身体機能に応じて手をさしのべたり、歩行介助や立位介助を行っている。トイレでの排泄を大切に一人ひとりの状態に応じて可能な限り対応している	個室にトイレが配置されており、一人で利用する利用者もいる。共用トイレもあり、時間的な間隔を考慮して、一人ひとりに合わせた介助を行う。センサーマットを使用している利用者も早めに対応することを心がけている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し水分補給や適度な運動をしてもらい便秘の予防に努めている。また、管理栄養士による食事のバランス調整や下剤の調整など個々に合わせて対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	平日は毎日入浴できるようにして、ゆっくり浸かりたい方など気持ちや習慣に合わせて支援している。車いすの方でも入りやすいように浴室を広くして浴室に入るときに昇降機も導入している	入浴日は決めず、平日にお風呂を準備して、その日に利用者の希望を聞き入浴支援がなされている。1日の入浴者は2人から3人と、ゆったりと入浴ができるよう配慮がなされている。昇降機の設備もあり、重度の方も浴槽内に入れるようになっている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の方が安心して、休息できるように日中活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。眠剤を飲まれている方には、日中の活動の妨げになっていないか確認している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管し、職員が分かるようにしている。また、服薬の間違いがなく様に職員同士で確認して対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえよう、できそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。また、時間の取れる限り外出を入居者の方と相談しながら行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブを兼ねて花の見学に行ったりできるように努めている。コロナ禍の為制限などありますが可能な限り外出支援をしたいと考えています	日常生活には職員付添いで、庭園を散歩したり、近所の散策などが行われている。受診の支援に加え、季節ごとに近所のお花の名所にドライブするなど気分転換が図られている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は今はいませんが本人が必要なものなどは購入できるようにしている(月2回のショッピングなどで希望するお菓子や日用品など)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	平日の日中は郵便屋さんが手紙など受け取りに来ていただいている。また、近くに電話を自由にかけられる場所があり日常的に支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に入る光の強さに応じて遮光カーテンにしたりレースのカーテンにしたりして調整している。また、季節のカレンダーを手作りし、フロアの飾りつけに地域の方や職員からの差し入れの花などを飾ったりして居心地よい空間づくりに努めている	建物が南向きのため明るく日当たりが良い。リビングは円形で天井が高い作りで解放感がある。リフォームによりオレンジが基調となり明るく感じられる環境となっている。利用者はゆったりとリビングで寛ぎ、思い思いに過ごされている。壁面には利用者の作品を飾り付けるなど季節感にも配慮がなされている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置に配慮し入居者同士の関係性にも配慮し少人数でもくつろげる環境が出来るよう工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には入居者本人・家族との思いでの写真や思い出の物を飾り、やすらぎが感じられるように配慮している。テレビや家具の配置なども本人の希望にそって配置している	居室の入り口は引き戸で、トイレや洗面はカーテン使用になり軽く使い勝手が良い。室内は清潔感があり、明るい光が入る部屋となっている。利用者が使い勝手の良いようレイアウトされ、ゆっくり休める空間となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていたらいいのか」を状況に合わせて環境整備に努めている。職員も混乱や失敗がないように配慮している		